

平成14年5月第24号

発行所 那珂郡東海村  
村松 1292-2  
茨城県弓道連盟  
電話 (029-282-3580)



茨城県弓道連盟会長

関 宗長

# 今年は変革、躍進の年に

## 会員の皆様へ

私は、会長に再選され、いつもの時より、その重責を痛感し、成すべきことの多いことにあせりを感じています。困難な時代です。でも乗り切らなければならぬ。会員の皆様のご指導、ご協力を心からお願致します。

さて、二十一世紀を迎えた今日の社会は、真似すればよいという前例のない社会に向かって、改革が進められています。

こんな改革に対して、弓界も、役員も、会員も意識を新たにして、しっかりと目標を求めて、全員の理解と協力を十分にいただきながら、邁進すべきと考えています。

## 全員参加の運営対策に

機敏に、綿密に、効率的な運営のできるよう、執行部体制整備のため「事務局」を明確に位置づけしました。

専門部はまず、会員の全員協力と広く社会の支持を得るために、会員及び内外に周知広報する必要から「広報部」を独立しました。

弓道を魅力ある生涯スポーツとして定着させるため、会員はもちろん、社会に広くアピールする必要があります。その他の「専門部」は、名前は従来と同じですが「役割分担」を明確にします。

会長を補佐する「副会長」は、それぞれ、会長に代わり、各部長との連携を密に、各専門部活動がスムーズに進むよう配慮しました。

一人でも多くの会員が各専門部の「部員」として参加することを期待します。専門部長を補佐する「部員」を広く公募しています。

希望する専門部の部員として、ぜひ、登録して下さい。各部からお願ひしています。運営に携わることには、弓道そのものの練習と同じように弓道人の練成、人格形成に必要なことです。

高段者は「役員」として、管理、運営の経験を重ねて下さい。今まで、本当に会運営に努力して、大きな成果をあげていただいた、たくさんの幹部役員の方々が当人のご希望もありましたが、交替しました。前任者の方々に心から感謝申し上げますとともに、これからも、今までのご経験を生かして積極的にご指導頂きたく存じます。

私は、多くの会員が「役員」として活動していただきたいと考えています。

「総務企画委員会」を創立  
こんな時だから、弓道の方向付けを確実なものにするための方策について、会長の諮問に添えていただくために、「総務企画委員会」を創設しました。

## 今年の重点目標は

弓道人は、多くの弓道人が望んでいるように、単なる「弓引き」ではなく、尊敬される社会人としての人格を磨いてほしい。指導者として必要な教養と指導力を身に付けることが最も大切です。他から敬愛されない高段者がいるとしたら、それは、弓道界のガンになりかねません。

競技力を高めたい。

弓道がスポーツである限り、やはり、競技に勝ちたい。

どのスポーツでも同じだが、技術を支える基本的な体力と精神力が勝利へのカギになります。国体に優勝した本県の選手たちが練習前に、千波湖を駆け足で走っていた姿を私は良く知っています。

技術を支える体力づくり、緊張をこえる精神力は絶えざる修練の積み重ねによってできる、自信から生じるものです。

中学生・高校生の弓道部をいっそう育成したい。少年たちの健全な成長に「弓道」が本当によいことは周知のことです。教育界の方々に、ご理解を深めていただき、これからの弓道人を育てたい。

全日本弓道連盟理事  
全日本弓道連盟審議会委員  
関東地域弓道連盟会長  
日本武道競技会理事

# 指導者としての心構えについて

副会長 柴田 猛

最近の社会情勢を見ると、善と悪、真と偽、美と醜等を判断する基準が曖昧になってきているように感じてならない。

二十一世紀の弓道の在り方を考えるとき弓道をおした人づくりが、今以上に重要になると思われる。

弓道の最高目標は真・善・美の追及であり、具現化である。この最高目標に近づくために、心の豊かさを求める徳育としての弓道(活人弓・射即人生・射即生活に結びつく弓道)、生涯をとおし、人格形成のための弓道を指導していくことが肝要であらう。弓道の持つ倫理性を追究させ人格向上に努めさせることが指導者としての基本的な眼目であると信じている。

以下、指導者としての心構えについて私見を述べてみたい。

一、「弓道指導の目標を明確にすること」

修練の目標はそれぞれに異なろうが、「健全な精神の涵養」と「健康な身体」の保持増進」を図ることにあ

る。この目標を根底に置き、修練の度合いに応じた到達目標を持たせ、(指導者は指導計画の作成) 指導することが大切である。

二、「指導項目を明確にすること」

● 弓射の基本的指導  
道は本にして技は末なり、本立たずして末正しきものなしとあるように射術の法則で射法八節を習得するには弓射の基本に徹することが大切である。「弓の抵抗力」「基本体型」「呼吸(息合い)」「目づかい」「心・気の働き」が一体化して総合的に働くように指導する。

底を図る。正法に則る射行は人柄と相まって射品射格となって現れる。

● 骨法にかなった指導

「縦横十文字」「五重十文字」の基本体型による不動無二の十文字の完成。

● 濁りなき自然の離れの指導

離れは機が熟して自然に離れるものでなければならぬ。そのためには「礼記射義」にある心志・身体・弓技の三つを一体化させ、心気の充実による離れの修練に努めさせる。

● 心気の安定と気合いの発動の指導  
平常心を維持し、無念無想の境地への自己啓発、息合いにあった動作の修練をさせる。息合いは体配を生かし心の安定、気力の充実をもたらす、気合いの発動の原動力となり、爆発力となる。

四、「指導者としての心得」

● 日本弓道の神髄の追究に努めること。  
● 礼節を旨とし万事に誠を尽くすこと。  
● 射法射技に習熟し範示ができること。

最後に、指導者としての心構えの私見を述べてみましたが、時・所・位に応じた指導をおして、一人一人の弓人が少しずつでも最高目標に近づけるよう指導援助をして頂きたいと考えています。教育は人なりの言葉にあるように指導者としてどうあるべきかを常に念頭に置き、修行していただきたいものです。

# 副会長に再任されて

副会長 田原 トシ

会員の皆さん、今年度も皆様方の暖かい御配慮をいただきまして、副会長に再任されました田原でございます。

年を忘れ若い気持ちで、会員の皆さんに少しでもお役に立てますよう元気で頑張りたいと思いますので、どうかよろしく願います。

私達の連盟も関会長先生の方針にそって弓道人口の増加や講習会及び競技会等が充実し確実に発展して参りました。これからも皆さんの御協力をお願いしながら、新会員の増加に向けて各地区が一体となって弓道教室等に力を入れてゆきたいですね。

好きで続けて来られた弓道を88才の今日まで元気に頑張つて来られましたことを会員の皆さんに感謝申し上げますとともに、茨城県弓道連盟の発展に向けての御支援と御協力を心からお願い申し上げます、簡単ではありますが、ごあいさつと致します。



# 14年度発足にあたり



副会長・理事長 木村喜久雄

13年度代議員会(総会)において、新たな理事(地区理事11名、会長推薦理事14名)の承認を受け、その後の理事会にて不肖木村が再度のご信任をいただき理事長を務めることになりました。

なお、副理事長には久保田清氏(藤代町支部)、北島瑞男氏(下館市支部)が就任いたしました。

15年の長い間、茨城県弓道連盟副理事長として支えて下さった宮崎康美氏に対し、心より敬意を表するとともに、ご慰労と感謝申し上げます。

久保田副理事長には一般会員登録名簿の管理と審査委員委嘱調整、北島副理事長には、中高校生登録名簿の管理と講師委嘱調整を主務としていただきますので、会員各位にはよろしく協力くださいますようお願いいたします。

また、二つの規約改正がありました。

その1、茨城県弓道連盟規約第2章(組織)第7条専門部、地区委員会の他、新たに総務企画委員会を設置する事の改正があり、これを受け、当面は教士七段受有者の中から6名の委員が委嘱されました。

当委員会(委員長 張替謙一氏)

は、会長が抱える総務・事業に関わる重要な課題についての諮問や調査の要請について答申・報告をするものとし、所謂会長のシンクタンクの機能として役割を持つものであります。

主たる課題(1)国体選手の強化対策、(2)弓道(心・技)の向上指導・啓発、(3)弓道連盟の活性化①高校弓道部OBの連盟登録推進対策、②専門部員協力希望者の増進と適正配属③派遣費および役員手当ての調整・適正基準書の策定、④その他などが挙げられております。

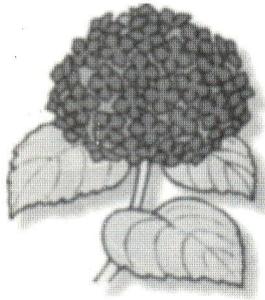
その2、専門部規約第1条・第4条の総務部を発展的に解消し、総務部が扱ってきた広報の重要性を鑑み、広報部として一専門部に格上げし、会員・報道機関との関係に努める部署になりました。

さらに、庶務会計を司る事務局は専門部から分離し、会長部局直轄の事務局としてその職務を果たしていくことになりました。

ただし、各専門部には事務的処理を担当する副部長を配しておりますので、専門部に関わる事務的問合せや資料の問合せ等は、当該専門部長へお尋ねください。

毎年発行する会員名簿については、事務局が担当する一つであります。

14年度以降の進め方については概略、上述の通りであります。組織は人智によって成るものであります。他人を思い、調整力を養い、その中で自己向上の研鑽がなされることとが大切なこととあります。これを深く認識し、各位におかれましては楽しい弓道修練が継続できるよう願望してやみません。



# 新しく役目を お引き受けするに あたつて



副理事長 北島瑞男

関会長の突然のご指名により、想像だになかった役目をお引き受けすることになりました。

茨弓連会員としての年数だけは化石並になつていると思ひますが、ローカルに居住し県連のために何もしてきませんでしたので、罪滅ぼしにというつもりでお引き受けしました。何が出来るか心細い限りです。

会長さんの掲げられた弓連の理想目標を展開するための、機構構図変更の結果として今回の役目が新設されたといひまして、散々お世話になった分のほんの一部でもお返しできればと思つています。

浦島の如きところもありますが、会員の方々に迷惑をおかけするようないことは、絶対に避けたいと心して参りますのでよろしくお願ひいたします。

# 広報部の発足にあつて



広報部長 介川 達

会員の皆さん、今年度「部」として新設された広報を担当することになりました。関会長の県弓連の活性化の為のお考えを少しでも早く受け止めて、広報としての任務を明確にして、部員と力を合せて一つ一つ実施してゆきたいと思ひます。

日弓連(月刊弓道)や各新聞社等との連携を強くして出来るだけ多くの記事の掲載が出来るように努めていきたいと思ひます。部員も広く県内の情報が集約出来るよう各地区より入部していただきました。又、弓道いばらきにも、中学・高校・大学のコーナー等も作りたいですね。弓道活性化のために会員の皆様の多くの情報や提言をお寄せいただけますよう心よりお願いいたしまして簡単ではありますがごあいさつと致します。

# 新任のご挨拶



指導部長 庄司幸夫

会員の皆様には、日々稽古に励まれ  
ご精進のこととお慶び申し上げます。

さて、今年度の役員改選に伴い、去  
る三月三十日の理事会にて指導部長  
という大役を仰せつかりました。山  
村・塚田両先生に副部長を引き受け  
ていただき、微力ながら精一杯尽く  
す所存です。宜しくお願い致します。  
今年度の指導部講習会について  
は、講師の先生方のお力添えをいた  
だき、年度目標として「体配・射技  
に基本をおき、各段階別にレベル  
アップを図り県内外の大会及び審査  
に通用する射人を養成する」事を掲  
げ、連盟行事計画通りの日程で進め  
て参ります。常に目標を持ち、挑戦  
し続けることが重要です。目標達成  
のために各段階別に(特に三段以下  
・四五段別)年間のシリーズ指導  
案を作成し、指導部指導のもとに統

一された講習会を目指し、充実した  
ものとなるよう部員一丸となって取  
り組んで参りたいと存じます。  
次に各段階別に年間目標を掲げます。

## (一) 三段以下講習会

●「射法八節の各節の関わりと運行  
法を学ぶ」

## (二) 四五段講習会

●「体配にそった射法・射技の基本  
とその運行について理解し実践で  
きるようにする」

●「全弓連制定の射礼の修得を中心  
とし指導者として必要な教養を身  
につける」

## (三) 称号受有者講習会

●「全弓連制定の射礼の修得を中心  
とし指導者として必要な教養を身  
につける」

## (四) シニア(六十才以上)講習会

●「趣味および生涯体育として基本  
を忠実に実行する」

尚、それぞれの講習会において主  
任講師の先生より三十分程度の講義  
を予定しております。

以上の目標にて講習会を進めてま  
いりますので、会員皆様の意欲的な  
受講とご意見をお願い申し上げます。  
新任のご挨拶といたします。

# 弓道人口増加について



審査部長 明間 勲

今年度の理事会において、前審  
査部長の介川達先生の後任として、

ため運営方法等を定期的に行うこと  
で、仲間同志でもお互いに指導がで  
き初心者が会員になられても、指導  
者の確保もされ活発な親睦交流もで  
きる。各会員の弓をみがくだけでな  
く、初心者の確保にもつとつと力  
を入れ無指定の受審者が多くなるの  
を望みたいものです。

審査部長という大役を引き受ける  
ことになりました。弓道人生三十  
九年の中でも一番忙しい年になり  
ますが、会員又審査部の皆様のご  
協力により県内・県外審査とも遺  
漏のないように頑張つて参りたい  
と思つています。

近年武道人口が減少している中  
で、弓道審査会で審査される方々は  
毎年増加されていることは、会員の  
皆様が弓道に対する熱意と考えられ  
ますが、一般の無指定・初段等の受  
審者が少ないことは残念であります。  
県内七十支部ある訳ですから、  
会員増加のため各支部底辺の拡大の

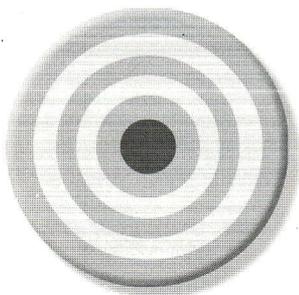
弓道人口が多い県を見えますと  
まず、県内に大小の弓道場が沢山あ  
る事がよく分かります。茨城県を見  
てみますと市町村の弓道場が県外よ  
り少ないのが、弓道人口が増加しな  
い一つの理由になっている。学生の  
受審者が減少しないのは各学校に弓  
道部があり毎年新部員が入部され指  
導されているからでしょう。

初心者の指導にあたってはかなり  
の時間と労力を要求されますが、指  
導者は底辺拡大のために力となるよ  
う、支部の皆様には大きな期待がか  
かっていると思います。

## 過去3年間の県内受審者数

平成11年度	合計8回	総数1,650名
平成12年度	合計8回	総数1,706名
平成13年度	合計8回	総数1,787名

以上の受審者数がありました。  
今年度も宜しくお願い申し上げます。



### 強化部長に 就任しての抱負と 方針について



#### 選手強化部長 市毛 道子

このたび役員改選に伴い思いがけず選手強化部長という大役を命ぜられて、何分にも力不足のため部長としての任務を全うすることが出来るか不安ですが、選手強化部役員一同全力を尽くして選手層のレベルアップに努めたいと思います。

#### 選手強化の主なねらいとして

1. 基礎体力の増強
2. 射技、射法の確立
3. 集中力の養成
4. 的中率の向上

以上4項目に重点をおき、強化を図りたい。

まず、国体関東ブロック大会の通過、一本差、一点差での勝ちを意識して最後まで集中力を高め、本国体の上位入賞と全日本関東選手権大会、

全日本選手権大会、全日本遠的大会等県外大会での上位入賞を目指して強化する。

#### 主な県外大会日程

- 7/21 全日本選手権大会関東選抜大会 (高崎市)
- 8/17~18 国体関東ブロック大会 (千葉市)
- 9/20~24 国民体育大会(高知県)
- 10/4~6 全日本男子選手権大会 (東京都)
- 10/4~6 全日本女子選手権大会 (東京都)
- 10/25~27 全日本遠的大会 (東京都)

#### 主な強化練習日程(県武道館)

- 4月14日・20日
- 5月4~5日・26日
- 6月16日・29~30日
- 7月20日・27~28日
- 8月10日・18日・24~25日
- 9月7~8日・15日
- 10月14日
- 11月30日
- 12月15日
- 1月26日
- 2月9日
- 3月2日

以上のように計画しております。お時間をさいて激励に来ていただければ幸いです。

### 平成14年度 新役員表

平成14年4月1日

役職	新任/留任	氏名	役職	新任/留任	氏名
会長	留任	関 宗長	審査部長	新任	明間 勲
副会長	留任	関根 村夫	審査副部長	新任	広水千加代
〃	留任	柴田 猛	〃	新任	根本 栄治
〃	留任	田原 トシ	〃	新任	福永 弘
副理事長	留任	木村 喜久雄	競技部長	新任	須田 勝
副理事長	新任	久保田 清	競技副部長	新任	森 昭夫
〃	新任	北島 端男	〃	新任	大貫富士男
広報部長	新任	介川 達	施設部長	留任	関口宇一郎
広報副部長	新任	宮崎 康美	施設副部長	新任	海老根 芳江
〃	新任	濱野 昇	〃	新任	小島 敏和
指導部長	新任	庄司 幸夫	選手強化部長	新任	市毛 道子
指導副部長	新任	山村 晋	選手強化副部長	新任	川瀬 政人
〃	新任	塚田 哲也	〃	新任	小 泉 民男

### 全国高等学校総合体育大会 茨城大会(茨城インターハイ) 第四十七回全国高等学校 弓道大会の開催について

#### 茨城県高等学校体育連盟弓道専門部

今年の8月2日から5日まで標記の大会が県武道館で開催されます。

全国の弓児が水戸に会します。今大会は、茨城にとって半世紀に一度の大イベントでもあります。

競技は近代的競技(5人立ち二射場・坐射)、男女とも団体・個人競技があります。

数年前より、この競技の準備に取りかかって参りましたが、いよいよ開催まで秒読みの段階になってまいりました。

全国各地から集う弓児の一生の思い出になるように、茨城県人のあたたかさを示したいとの思いと我が地元、茨城の選手達が華々しく活躍できる大会であることを願って大会を迎えたいと思っております。皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

#### 大会日程於茨城県武道館

- 8月2日(金) 弓道競技開会式
- 3日(土) 個人競技予選・団体予選
- 4日(日) 個人決勝・団体決勝トーナメント・個人表彰式
- 5日(月) 団体決勝トーナメント・団体表彰式・閉会式

平成14年度 県内審査 (平成14年4月～平成15年3月) 申込先: 広水千加代 友部町大田町1152 TEL. FAX. 0296-77-3309

施行月日	会場	審査種別	締切日
5月12日(日)	茨城県武道館	一般(無指定～四段)	4月23日(火)
9月1日(日)	〃	関東地域連合審査(五段)	7月21日(火)
9月22日(日)	〃	一般(無指定～四段)	9月3日(火)
12月8日(日)	〃	一般(無指定～四段)	11月19日(火)
6月2日(日)	茨城県武道館	中・高校生(無指定～四段)	5月14日(火)
8月11日(日)	〃	中・高校生(無指定～四段)	7月23日(火)
10月6日(日)	〃	中・高校生(無指定～四段)	9月17日(火)
12月22日(日)	〃	中・高校生(無指定～四段)	12月3日(火)

### 問合せ・申込み先

広報部	介川 達	029-247-8547
指導部	庄司 幸夫	0296-24-2958
審査部	広水千加代	0296-77-3309
競技部	須田 勝	0299-26-3217
施設部	関口宇一郎	029-251-0288
選手強化部	川瀬 政人	0479-46-1103

1. 連盟会費納入先 郵便為替口座番号 00380-4-3595
2. 県内・外審査料納入先 " 00180-2-190038
3. 大会参加料納入先 " 00190-5-171846

### 茨城県弓道連盟後援大会の参加者数(平成13年度)

大会名	開催日	参加者	人数
第44回観梅弓道大会	H13. 3.18	高校男子252名、高校女子312名、一般男子105名、一般女子82名	751名
第30回村松山弓道大会	H13. 4. 1	小学生21名、中学生163名、高校生212名、一般75名	471名
第37回土浦桜まつり弓道大会	H13. 3.31(学生) H13. 4. 1(一般)	中学生72名、高校男子166名、高校女子168名、一般126名	532名
第11回山ざくら弓道大会	H13. 4. 8	一般122名	122名
鹿島神宮弓道大会	H13. 4.29	高校生115名、一般145名	260名
第22回神栖町弓道大会	H13. 5.13	高校生53名、一般68名	121名
年輪ピック弓道県予選大会	H13. 5.18	一般33名	33名
第50回あやめまつり弓道大会	H13. 6.10	高校生、一般150名	150名
第8回県南弓道大会	H13. 8.12	高校生、一般159名	159名
女子弓道大会	H13. 9.24	一般68名	68名
第45回麻生町産業文化祭弓道大会	H13.11. 4	高校生100名、一般101名	201名
第8回八郷町弓道大会	H13.11.12	一般130名	130名
第21回県西弓道大会	H14. 1. 6	高校生、一般237名	237名

# トピックス 地域弓道大会及び行事の紹介

## 津宮浜鳥居竣工式

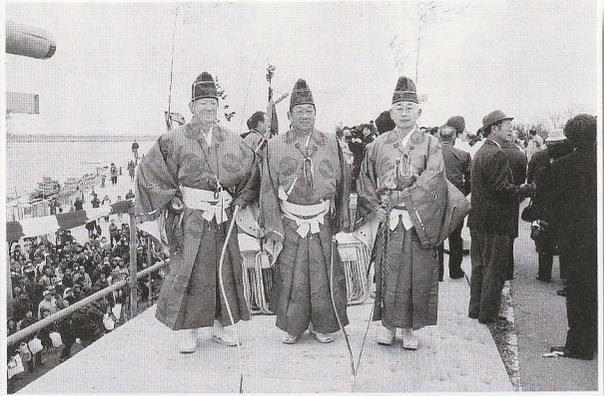
香取神社津宮浜鳥居竣工式の尾越し墓目が平成14年3月3日に執り行われた。

48年ぶりに改築の鳥居は高さ9.4m、幅12m使用材は樹齢350年のものでした。

墓目番(香取弓道会)

射手	教士六段	高橋	平吉
太刀持	三段	大木	巖
弓持	三段	野口	雅男

オ、オの矢声で鏑矢は浜鳥居を高々と舞い80m先の利根川の河面に着水した。



## 鹿島神社奉納射会

五月五日(日)霞ヶ浦町において鹿島神社奉納射会(平三坊大会)が行われました。当社は鹿島神宮の分社であり、五穀(米・麦・アワ・キビ・豆)豊穰と子孫繁栄の神として信仰を深め、祭りが催されており、また、武勇の神としても知られ、神社の近くでは、一〇〇年以上も前から、弓道と競馬が行われていたそうです。現在、弓道だけが残っており、毎年平三坊大会として、近隣から五〇名前後が集い、野外で競います。競技内容も伝統を受け継ぎ、点数制でおこなわれています。

その昔、牛渡地区や坂地区の周辺の各家庭には、庭にあずちがあり、弓を楽しんでいたようです。そして、農閑期になると、庭で交流試合が催され、矢渡しも行われたという本格的な大会だった事が伺われます。今年も四三名の弓仲間があつまり、射詰・競射一二射(内四射は点取り)で行われ、祭りに訪れた参拝者やカメラマンのシャッターを切る姿が見受けられました。

知られざる、由緒ある大会として今後も受け継がれて行く事でしょう。

(資料提供 霞ヶ浦支部)



### 村松山奉納巻藁射礼

茨城県東海村には、日本三大虚空蔵で有名な村松虚空蔵尊が有ります。

東海村弓道連盟は、昭和47年に村内4事業所及び事業所に属さない村民の村支部を一元化し、東海村弓道連盟を結成し、その行事の一つとして弓道の普及発展を目標に、村民への宣伝及び県内各地区で行われているローカル弓道大会で、毎年招待を頂きお世話になっている県内弓友の皆様と御礼を兼ねて、村松虚空蔵尊境内で村松山奉納弓道大会を実施してきた。

昨年、平成13年度に30周年記念大会を盛大に行った。

今年31回は村松山大会と、村松山奉納巻藁射礼を分けて実施する事にした。

当初村松虚空蔵尊境内で行われていた村松山弓道大会も境内が手狭になり、会場の設営が大変な事、また、村宮弓道場として体育館に並設して東海村体育館弓道場を、平成12年度に増改築してもらい整備された事で、村松山大会を体育館弓道場で行うことから、村松虚空蔵尊との関連

の意義を損ねないため、村松虚空蔵尊境内で特に大祭に合せ、奉納巻藁射礼を住職に申し出たところ快く受け入れて下さり、今年第1回としてスタートした。

村松虚空蔵尊の大祭は例年曜日に関係なく4月3日に行われ、一方村松山弓道大会は参加者の便を図り、例年の4月の第1日曜日に実施している。今回この体制が出来た事により、奉納村松山巻藁射礼は末永く継続されることと思う。

この記念すべき第1回は4月3日午前10時30分に開始され、4月には珍しく汗ばむほどの好天に恵まれ、境内には春休みを利用し、有名な十三参りで近県より訪れた大勢の参拝客及び村内弓道家多数の見守る中、紅白の垂れ幕8畳程のウスベリが敷かれ、真新しい巻藁をセットした仮説会場で盛会に行われた。

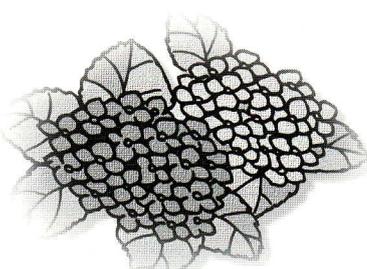
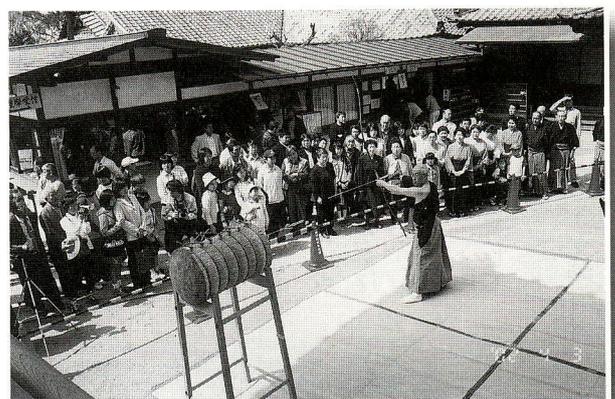
優雅な六段の琴の音に合わせ、射手は東海村弓道連盟の理事長(茨城県弓道連盟副会長・兼理事長)弓道教士六段木村喜久雄氏、弓持ち東海村弓道連盟の副理事長・弓道錬士六段濱野昇、太刀持ち東海村支部弓道五段田口敏朗氏、介添え東海村支部

副部長弓道五段安部谷子氏、解説東海村弓道連盟副理事長弓道錬士五段檜山芳雄氏で行われた。

巻藁射礼は、坐射にて全日本弓道連盟の副読本に則り、奉納の意を込め厳粛に行われ、鋭い矢声とともに放たれる矢は、大勢の観客に大きな感動を与えた。

終了後の評判は良く、これから村松山と共に、末永く本連盟の恒例行事として継続されるものと思われま

濱野 記



### 編集後記

しばらくぶりにて弓道いばらきの編集に加わった。仕事があり、弓の稽古と、それぞれの生活エリアでの多忙な中、集まって仕事することは大変な労力の要することである。組織が動くのは多勢の裏方が居て支えていることを忘れな

いではほしい。今年からは、多くの皆さんの知恵を集めて広報も新しい方向づけを考える。

又、弓道いばらきの紙面にも、新しく広告の掲載ができるように考えていきたい。淋しい話であるが、県連を支えた副理事長の竹下孝雄先生(錬士五段)、土浦支部の内緑先生(錬士五段)、水戸支部の田村澄寿先生(教士七段)等が帰らぬ人となられた。それぞれ県連を支えて来た人達である。心から御冥福をお祈り申し上げます。

合掌

介川

### 編集委員

- 介川 達
- 濱野 昇
- 入江 進
- 宮崎 康美
- 網川 久子
- 尾崎 芳子